

スナメリ 日本周辺

Narrow-ridged Finless Porpoise, *Neophocaena asiaorientalis*



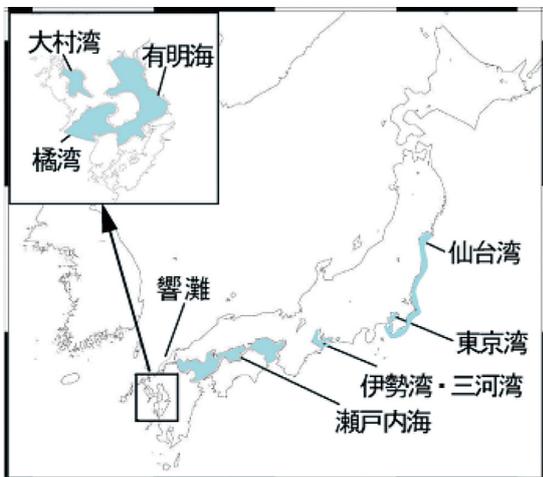
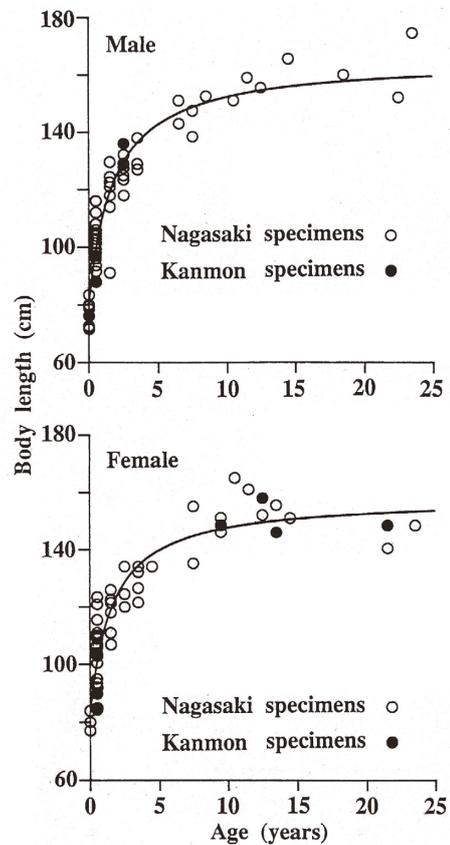
管理・関係機関
農林水産省

利用・用途
展示鑑賞（水族館）、油（戦後の一時期、利用された）

最近一年間の動き
商業捕獲は行われていない。混獲が報告されている。従来、世界各地に分布するスナメリは1種からなると考えられていたが、研究の進展により2種に分かれるとの説が提唱され、広く認められつつある。これによると、我が国周辺のスナメリは <i>Neophocaena asiaorientalis</i> に属することとなる。本報もこれに従う。

漁業の特徴
商業捕獲は行われていない。水産資源保護法に基づく保護対象種である。

生物学的特性
<ul style="list-style-type: none"> ■ 寿命：最長で30歳程度（詳細は不明） ■ 性成熟年齢：雌4歳以下；雄3～9歳（太平洋岸・瀬戸内海の個体）、雌5～9歳；雄4～6歳（西九州沿岸の個体） ■ 出産期・出産場：春～夏（太平洋岸・瀬戸内海の個体）、秋～春（西九州沿岸の個体） ■ 索餌期・索餌場：周年・日本の沿岸海域 ■ 食性：イワシ類、ハゼ類、イカナゴ、コノシロ、イカ類、タコ類、エビ類など ■ 捕食者：ホホジロザメ、シャチ



日本におけるスナメリの主分布域 (Shirakihara *et al.* 1992 を改変)
 仙台湾～東京湾、伊勢湾・三河湾、瀬戸内海～響灘、大村湾、有明海、橘湾

スナメリの成長曲線（長崎県・関門海峡周辺の個体より）
 (Shirakihara *et al.* 1993 を改変)

漁業資源の動向

戦後の一時期、油を採取する目的で捕獲されたことがあった。また、水族館での展示に供するため、まき網による捕獲が行われたこともある。橘湾では、かつて小型定置網で多くの個体が混獲されていたが、漁法が変化して混獲は減少した。しかし、その後も混獲は続いており、大村湾、有明海・橘湾では資源量推定値の1%程度が1年間に混獲されていると考えられている。2004年11月に伊勢湾において、学術研究及び教育展示を目的に9頭の特別採捕が行われた。

資源状態

本種には日本周辺に少なくとも5つの系群が存在する。航空目視調査による最新の資源量推定値は、仙台湾～東京湾系群のうち仙台湾～房総半島東岸:2,251頭(CV=39.1%、調査年は2005年)、伊勢湾・三河湾系群:2,961頭(25.0%、2003年)、瀬戸内海～響灘系群のうち瀬戸内海:9,177頭(CV=19.9%、2006年)、大村湾系群:168頭(39.3%、2012年)、有明海・橘湾系群:3,000頭(24.5%、2012年)であり、我が国周辺には少なくとも17,000頭程度は生息しているものと見込まれる。瀬戸内海では、1970年代から2000年にかけて資源の「減少」が報告されているが、その後、5年の間隔を置いて実施された航空目視調査では密度の低下は認められず、近年は「横ばい」の可能性がある。その他の海域でも資源の減少を示す兆候は得られておらず、資源動向は「横ばい」と判定されるものの、仙台湾から房総半島東岸にかけての海域では東日本大震災後に密度が低下した可能性が示されており、資源の動向を注視する必要がある。資源水準については、安全を見込んで「中位」程度と見なしたが、生息数の少ない大村湾は「低位」と扱うのが適切であろう。

管理方策

商業捕獲は行われていないが、漁網への混獲が起こっている。混獲数の把握に努めるとともに、混獲を減らす努力が必要である。本種の生息域はいずれも人間活動の盛んな場所であり、海砂の採取などが過度に行われれば、生息域の縮小や分断を招く恐れがある。実際、瀬戸内海では海砂の採取による生息域の分断化の可能性が指摘されている。また、仙台湾から房総半島東岸にかけての海域では、東日本大震災の影響により生息域の環境の変化や劣化が懸念される。目視調査を通じ、資源量・分布状況の変化等について情報を収集する必要がある。



航空目視調査に使用される小型飛行機

資源評価まとめ

- 我が国周辺には17,000頭程度は生息。
- 各生息域とも、近年は生息密度の低下は認められていないが、仙台湾から房総半島東岸にかけての海域では東日本大震災後に減少した可能性がある。
- 資源水準は安全を見込んで「中位」程度、生息数の少ない大村湾は「低位」と扱うのが妥当。
- 引き続き資源の動向把握が必要(特に瀬戸内海及び資源が減少した可能性のある仙台湾から房総半島東岸にかけての海域)。

資源管理方策まとめ

- 商業捕獲はないが混獲が発生(14.0頭/年:2006～2011年の国際水産資源研究所とりまとめによる)。
- 当面の目標は、現状の維持(仙台湾から房総半島東岸にかけての海域ではもとの水準への回復)。
- 目視調査で資源量と分布状況をモニタリング。



飛行機から見たスナメリ(撮影 南川真吾)

スナメリ(日本周辺)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位(大村湾系群は低位)
資源動向	横ばい(瀬戸内海及び東日本大震災後に密度が低下した可能性のある仙台湾から房総半島東岸にかけての海域では要注意)
世界の捕獲量(最近5年間)	詳細は不明 各地で混獲あり
我が国の捕獲量(最近5年間)	商業捕獲はないが混獲あり (14.0頭/年:2006～2011年の国際水産資源研究所とりまとめによる)